

国際化学肥料ニュース (2020年5月)

肥料業界の2020年5月動態

- * 4月30日。インド MMTC 社が尿素の国際入札を行った。5月7日締め切り、5月18日まで契約完了、6月15日まで出港という条件である。今回は今年度2回目の尿素入札で、購入数量100万トンの見込みである。

- * 5月8日、インド MMTC 社は尿素入札の応札数量を公表した。14社応札し、応札量239.3万トン、最低応札価格は Drey Moor 社の CFR 西海岸 226.81 ドル/トン、Samsung 社の CFR 東海岸 231.90 ドル/トンである。
インドは西海岸 49.2 万トン、東海岸 29.4 万トンの計 78.6 万トンを契約する予定である。すべて中東産の尿素である。

- * 新型コロナウイルスの影響で、国際市場のアンモニアの需要が低迷している。カナダの Nutrien 社はトリニダードにある4つのアンモニアプラントの一つを一時的に閉鎖することを決めた。当該プラントはアンモニア生産能力60万トン/年で、最低3か月の閉鎖となる。残りの3つのアンモニアプラントと1つの尿素プラントは正常に稼働している。

- * 5月第1週の国際りん安市場が再び低迷状態に陥った。インド NFL 社が4万トン DAP の国際入札には最低応札価格が CFR314~316 ドル/トンまで下がった。ブラジルでは粒状 MAP の CFR 価格が4月末より3~5ドル下がり、305~310ドル/トンになったが、需要家が購入の意欲を見せなかった。アルゼンチンでは DAP と MAP の CFR 価格が314ドル/トン前後に安定している。アメリカりん安 (DAP と MAP) の輸出価格が FOB ニューオーリンズ 303~313 ドル/トンまで下がった。

- * 新型コロナウイルスの影響で、りん安の需要が低迷している。チュニジアの GCT 社が3月末に再開予定の2番目の DAP 生産ラインを5月下旬に延期すると発表した。

- * モロッコ OCP 社が初めて化成肥料をインドに輸出した。すでに 12-32-16 の化成肥料2.5万トンを CFR300 ドル/トンで納入し、10-26-26 の化成肥料についても商談中である。今までインドの化成肥料は主にロシアとヨルダンからの輸入である。OCP 社がインドに長年粗りん酸と DAP を輸出しているが、化成肥料の輸出が今回は最初である。4~6月インドの化成肥料輸入量が35万トンの予定である。

- * 中国税関の速報によれば、2020年4月の化学肥料輸出量が8.3%減の207.9万トン、金額が29.8%減の4.45億ドル。その内訳は硫安73.4万トン、DAP40万トン、MAP18.8万トン、尿素11.2万トン、重過石11.6万トン、塩安11.3万トン、化成肥料14万トン、硫酸加里2.5万トン。

一方、4月の化学肥料輸入量が27.7%減の86万トン、金額が32.9%減の2.54億ドル。輸入数量が最も多いのは塩化加リの74.79万トンである。

- * 一部国の塩化加里輸入輸出データ

国名	期間	輸出量	輸入量	増減率 (%)
カナダ	2020年1~3月	500万トン		-2%
インド	2020年1月		38.3万トン	27%
アメリカ	2020年1~3月		287万トン	-13%
ブラジル	2020年1~3月		107万トン	-1%

- * IFA（国際肥料工業協会）のデータによれば、2020年世界の加里肥料生産量が5210万トン（K₂O換算、以下同）で、2019年の4920万トンより260万トン増えると予測した。また、加里肥料産業の稼働率が2010年の74%から2018年の71%に下がり、休止している生産能力が2010年の1760万トンから2018年の2400万トンまで増加した。2019年北米の減産量が200万トン、ロシアとベラルーシの減産量が150万トンである。

- * 中国石油と化学工業連合会の最新統計データによれば、2017年中国DAP実生産量1502.41万トン、2018年DAP生産量1568.91万トン、2019年DAP生産量1141.83万トン、3年間で23%も減少した。一方、2018年国内DAP消費量828.53万トン、2019年国内DAP消費量794.15万トン、4.1%の減少である。

- * 5月11日、イスラエルのICL社も中国と2020年塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR220ドル/トンで91万トンを供給し、プラス49万トンのオプションである。

- * カナダのCanpotexはCFR230ドル/トンの条件でインド側と2020年塩化加里基本契約に合意した。契約期間は2020年12月31日までとされている。

- * また、カナダのCanpotexもCFR220ドル/トンの条件で中国と2020年塩化加里輸入基本契約を締結した。

- * 中国窒素肥料工業協会は2020年第1四半期のデータを発表した。1~3月の窒素肥料生産量（N換算）が4.8%増の977.2万トン、そのうち尿素の実生産量が8.8%増の1340

万トン。一方、1～3月の窒素肥料消費量が8.1%増、そのうち尿素消費量が14.6%増。ただし、価格が昨年同期より10.5%下がった。それにより、中国窒素肥料業界全体の利益が0.75億人民元（約1050万ドル）の赤字である。

- * 5月第2週のりん安国際市場にインドだけが活躍している。インド数社が約14.4万トンDAPを契約して、CFR価格が310ドル/トン前後である。また、パキスタンがモロッコにDAPの購入を打診しているが、価格で揉めて、契約まで行かなかった。

インド以外では、サウジアラビアがFOB300ドル/トンで東アフリカに2.5万トンDAPを販売した。アメリカのMosaicが南米に1.4万トンDAPを販売し、ブラジルがロシアからCFR307ドル/トンでMAPを購入した。5月後半は国際りん安市場が引き続き低迷する模様である。

- * 新型コロナウイルスの影響を受け、国際アンモニア価格が急落した。Yara社がロシアメーカーとの間に5月のアンモニア価格が4月より17～18ドル/トン下がり、FOB200～203.5ドル/トンで合意した。これにより5月中旬のバルト海アンモニアFOB価格が200ドル/トンまで下落し、ウクライナの輸出業者がFOB190～200ドル/トンで商談している噂がある。また、東南アジア産アンモニアも急落し、4月末に比べ、すでに40ドル/トンも下落した。インドネシアがCFR210ドル/トンより若干上回る価格でインドに2船約1.7万トンのアンモニアを輸出した。

アンモニアの需要不振で、カナダのNutrien社がトリニダードにある4つのアンモニアプラントの一つを3か月閉鎖し、約15万トンの減産を決めた。ほかに減産を検討するメーカーもある模様。

- * イスラエルのICL社はインドと2020年塩化加里輸入基本契約を締結した。2020年12月末までにCFR230ドル/トンの価格で41万トン塩化加里を輸出する。

- * モロッコOCP社がインドと2020年4～6月の粗りん酸価格について合意した。CFRインド（P2O5換算）607ドル/トンで、1～3月の価格より17ドル/トンの値上げである。

- * 中国石油化工連合会のデータによれば、2020年1～3月の中国化学肥料生産量（N、P2O5、K2O換算、以下同）が1.5%減の1289.4万トン、そのうち窒素肥料が3.7%増の881.9万トン、りん酸系肥料が20.4%減の239.54万トン、加里肥料が6.8%増の166.1万トン。一方、1～3月の化学肥料販売量が2.7%減の1238.4万トン、そのうち窒素肥料が7.1%増の777.9万トン、りん酸系肥料が22.1%減の285.3万トン、加里肥料が11.2%減の285.3万トン。

- * 5月第3週の国際りん安市場が低迷している。東半球ではインドネシア Pupuk 社の 4.5 万トン DAP 入札は中国が CFR317.4 ドル/トンで落札した。タイも中国から 7500 トン DAP を購入した。また、チュニジアから CFR310 ドル台でパキスタンに DAP を輸出した。ただし、西半球のブラジルは新型コロナウイルスの影響で粒状 MAP の輸入が減少した。現在 CFR ブラジルの MAP 価格が 300~305 ドル/トンまで下がっている。
- * 5月20日、ヨルダンの APC 社も中国と 2020 年塩化加里輸入基本契約を締結した。価格は CFR230 ドル/トンで、ほかの加里メーカーと同価格である。ロシアの Uraskali 社とドイツの K+S 社はまだ中国側と契約していない。

大手各社の営業業績

- * アメリカの加里メーカー Intrepid Potash 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。新型コロナウイルスの影響で、業績が悪化した。加里肥料生産量 13.7 万トン、販売量 9.9 万トン、売上高 3379 万ドル、粗利 433 万ドル、純利益が 740 万ドルの赤字である。
- * アメリカの CVR Partners 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。新型コロナウイルスの影響で、業績が悪化した。生産量がアンモニア 20.1 万トン、尿素などの窒素肥料 31.7 万トン、売上高 7500 万ドル、EBITDA1100 万ドル、純利益 2100 万ドルの赤字である。
- * カナダの Nutrien 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。加里肥料生産量 303.5 万トン、窒素肥料生産量 144.7 万トン、りん酸肥料生産量 37.2 万トン。加里肥料販売量 287.7 万トン、窒素肥料販売量 252.8 万トン、りん酸肥料販売量 75.9 万トン。売上高 26.5 億ドル、粗利 5.3 億ドル、EBITDA700 万ドル。グループ全体では売上高 41.9 億ドル、EBITDA5.55 億ドル、純利益 3500 万ドルの赤字である。業績悪化の主な原因は新型コロナウイルスの影響である。
- * ドイツの K+S が 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。製品販売量が 15.8%増の 190 万トン、売上高が 13.8%減の 10 億 8900 万ユーロ、EBITDA が 25.5%減の 2 億 100 万ユーロ、業績悪化の主な理由は加里肥料と凍結防止用除氷塩類の販売価格の大幅低下である。
- * オランダの OCI NV 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。製品販売量が 62%増の 270 万トン、そのうち化学肥料販売量が 86%増の 216.8 万トン、特に尿素販売量が

149%増の 111.6 万トン。売上高が 36%増の 8 億 1100 万ドル、EBITDA が 44%増の 1 億 9300 万ドル。

- * ロシアの Acron 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。製品の生産量が 1%増の 194.8 万トン、販売量が 11%増の 199.4 万トン、売上高が 5%減の 4 億 2300 万ドル、EBITDA が 31%減の 1 億 1000 万ドル、純利益が 1 億 5300 万ドルの赤字である。赤字の原因は主に外貨建て資産および負債の再評価による 1 億 4800 万米ドルの為替差損が発生したからである。
- * モロッコの OCP 社は 2020 年第 1 四半期の業績を公表した。売上高が 2.2%減の 12.7 億ドル、粗利が 10.4%減の 781 万ドル、EBITDA が 23%減の 345 万ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * エジプトの Hydrocarbon 社はエジプト Ain Sokhna にアンモニア生産ラインの新設を計画している。イタリア Maire Tecnimont SpA 社の子会社 Maire Tecnimont SpA と EPC 請負業者契約を締結した。当該アンモニアプラントは設計生産能力 1320 トン／日、生産されるアンモニアは同じ敷地内にある硝酸プラントの原料とする。投資額 5.5 億ドル、2023 年に完成する予定である。
- * オーストラリアの Australian Potash 社はオーストラリア環境保護局 (EPA) から Lake Wells 塩湖の硫酸加里プロジェクトで小規模または予備的な作業を行う許可を与えられたと発表した。Lake Wells 塩湖は西オーストラリア州 Cosmo Newberry 町の北に位置する一時湖である。面積 1,895km²、鹹水に硫酸加里を豊富に含有する。
- * オーストラリア政府は西オーストラリア州の Agrimin's Mackay 加里プロジェクトのステータスを承認した。当該プロジェクトは西オーストラリア州 Kiwirrkurra の近くにある塩湖から硫酸加里を生産するもので、承認により、当該プロジェクトの資金調達と建設が可能となった。
- * ロシアの Metafrax's 社がロシア北部に計画中のアンモニア-尿素-メラミン (AUM) プロジェクトが着実に進んでいる。すべての設備が現場に到着して、据付と配管工事を行っている。2020 年末に完成し、稼働が始まるとの予定である。当該プロジェクトはスイスの Casale 社が担当する。
- * ウズベキスタンの Navoyazot に建設中の硝酸プラントは完成し、5 月 7 日に試運転を開始した。当該プラントは生産能力 1500 トン／日、5 月末から正式に稼働を始める。

その他

- * ロシア Acron 社のカナダ子会社 Saskatchewan Ltd.はサスカчевン州 KL279 地区 (面積 263.5km²)の加里資源探索権利を Nutrien 社に譲渡した。ただし、同じサスカчевン州にあるほかの 10 ヶ所、総面積約 2000km² の加里資源探索権利を継続に保有するとも発表した。